

第4章 まちづくりの方針



第4章 まちづくりの方針

1 上位関連計画におけるまちづくりの方向性

1-1 都市計画マスタープランにおける基本理念と基本方針

第2次宇城市総合計画では、「ちょうどいい！住みやすさを実感できる都市・宇城」を将来都市像として掲げており、人口減少により引き起こされる本市経済の縮小や行政サービスの低下に対して、市民と行政が協働し、より発展的かつ具体的にまちづくりに取り組むこととしています。

これらを踏まえて、「宇城市都市計画マスタープラン」では、都市づくりの基本理念と4つの基本方針を定めています。

【基本理念】

海×山×まちが織りなす

多様な暮らししぶりを選択できるまち・宇城

【基本方針】

基本方針1	魅力に満ちた生活圏の形成と波及による“暮らしやすい”まちづくり
基本方針2	地域活力を高める賑わいと交通の要所を活かした産業の発展による“暮らし続ける”まちづくり
基本方針3	水と豊かな自然環境とそれに育まれてきた歴史文化の継承・活用による“暮らしたくなる”まちづくり
基本方針4	みんなで支え、安全・安心に“暮らし合う”まちづくり

▲宇城市都市計画マスタープランにおける都市づくりの基本理念と基本方針

1-2 本市の暮らしぶり

宇城市都市計画マスターplanでは、本市における暮らしぶりを大きく4つに分類しています。

本計画の対象範囲は、都市計画区域であることから、本計画では、4つの暮らしぶりのうち「街暮らし」の魅力向上を図り、これによって、市全体の生活利便性の向上を目指します。



▲暮らしぶりと連携イメージ

2 まちづくりの方針(ターゲット)と施策・誘導方針(ストーリー)

2-1 立地適正化計画の役割

「1 上位関連計画におけるまちづくりの方向性」に示す通り、本市では、豊かな自然環境等を背景に、多様な暮らしがあります。

本計画の対象となる「街暮らし」のエリアは、本市の中心的な役割を担っていることから、エリア内の利便性の維持・向上を図り、他のエリアとの連携軸の強化を図ることで、周囲の「海辺暮らし」や「田園暮らし」、「里山暮らし」を含めた市全体の生活利便の向上につなげます。



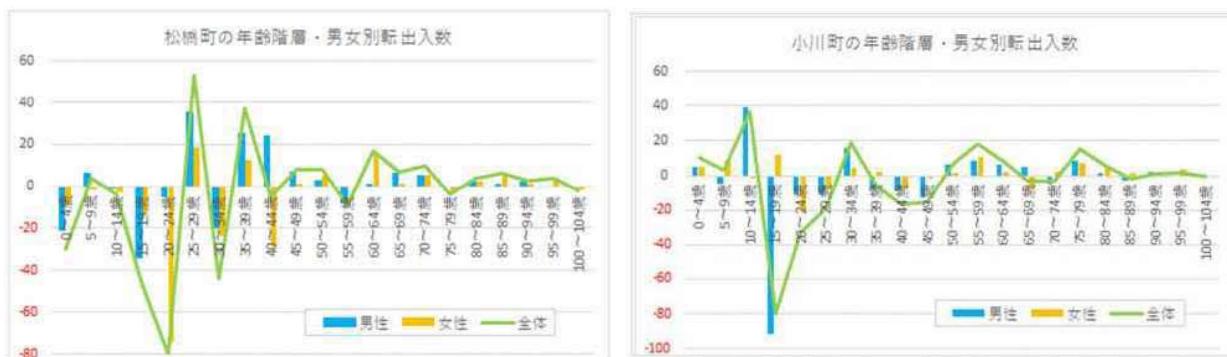
▲立地適正化計画の役割

2-2 まちづくりの方針（ターゲット）

本市の魅力である豊かな自然環境が織りなす多様な暮らしは、都市と自然のバランスによって、成立しているものです。このため、自然環境をおろそかにし、都市としての発展に傾きすぎてしまうと、本市の暮らしの良さが半減してしまいます。一方で、都市活動をおろそかにしてしまうと、生活がしにくくなり、引いては人口減少や地域活力の低下につながり、豊かな自然環境の荒廃につながる恐れもあります。

都市計画区域北部の松橋地域では、2016（平成 28）年～2018（平成 30）年の15～24 歳の転出が顕著である一方で、25～29 歳の子育て世代の転入が超過しています。

都市計画区域南部に位置する小川地域でも、30～34 歳の子育て世帯の転入が多く見られます。



また、市民アンケート調査等では、日常生活が便利になるように商業や医療等の都市機能の利用しやすさや自然災害に対する安全性を求める声が多くなっています。一方で、自然の豊かさに対する満足度が高く、また、本市のまちづくりにおける自然環境の重要性も認識されている状況にあります。

こうした状況を踏まえ、市全域の都市づくりの基本理念「ちょうどいい！住みやすさを実感できる都市・宇城～海×山×まちが織りなす多様な暮らしぶりを選択できるまち～」を実現するため、本計画では、都市計画区域内及び用途地域内を対象とした“まち”づくりの方針（ターゲット）を「子育て世帯や高齢者が快適に暮らしやすく自然環境と都市のバランスがとれた多様な暮らしぶりの核となる“まち”づくり」とし、本市全域に広がる多様な暮らしぶりの核となるまちづくりを進めます。

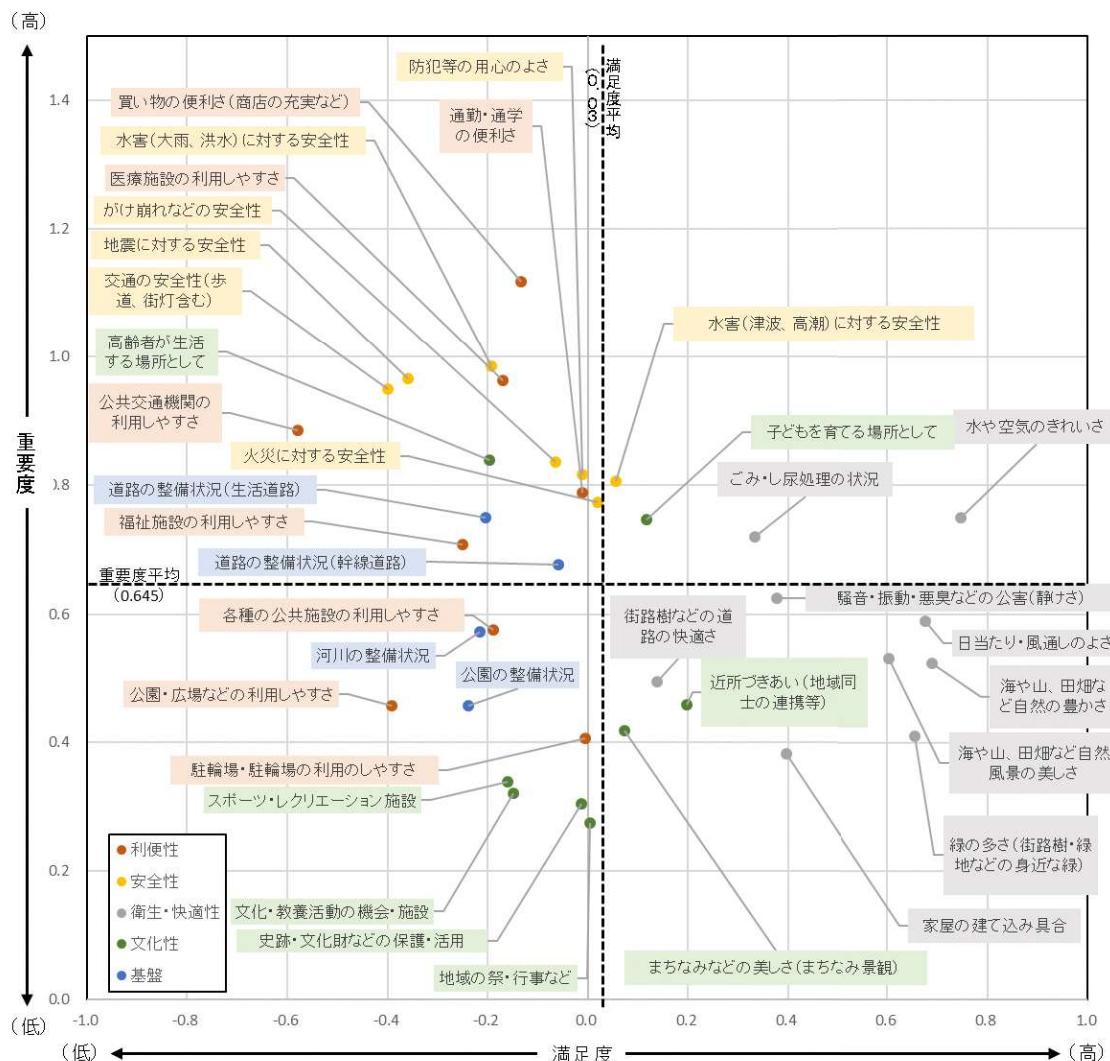
都市づくりの基本理念（都市計画マスタートップラン）

「ちょうどいい！住みやすさを実感できる都市・宇城」
～海×山×まちが織りなす多様な暮らしぶりを選択できるまち～

【まちづくりの方針（ターゲット）】
子育て世帯や高齢者が快適に暮らしやすく
自然環境と都市のバランスがとれた
多様な暮らしぶりの核となるまちづくり

■現在の満足度・将来の重要度（市民・中学生アンケートより一部抜粋）

- ・市民、中学生ともに現在の満足度として、自然環境に対する満足度が高く、将来の重要度として、防災や医療施設、福祉施設等の利用しやすさの重要度が高くなっています。



▲市民アンケートにおける現在の満足度・将来の重要度

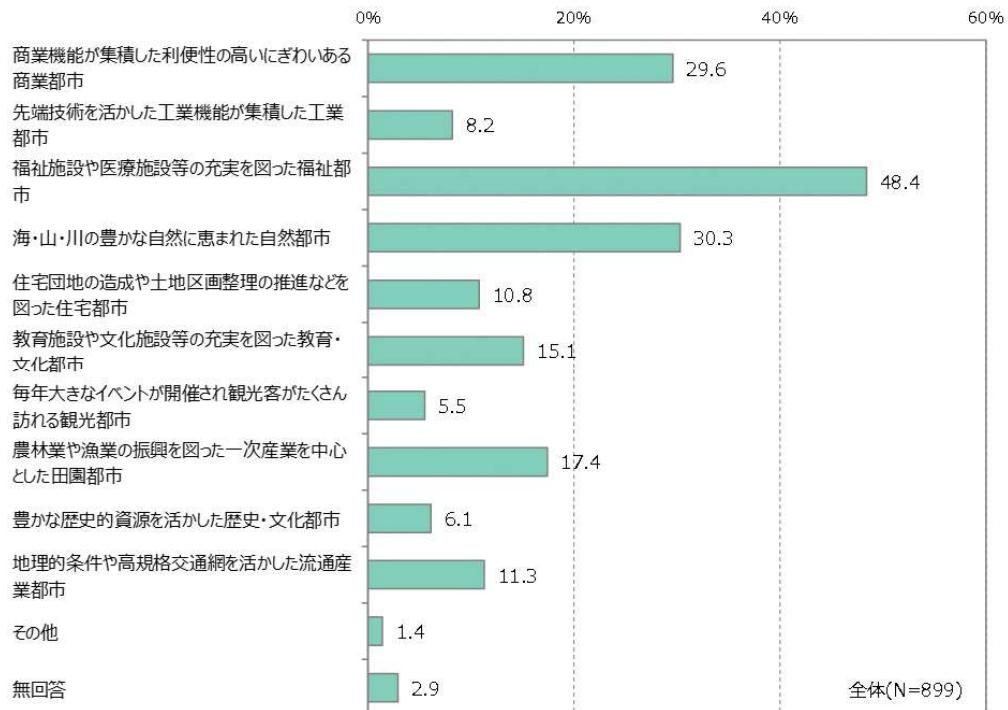
■年齢別に見た現在の満足度及び将来の重要度の上位3項目（市民アンケートより一部抜粋）

	現在の満足度	将来の重要度
10歳代	①海や山、田畠など自然の豊かさ ②日当たり、風通しのよさ ②水や空気のきれいさ	①公共交通機関の利用しやすさ ②買い物の便利さ ②医療施設の利用しやすさ ②子どもを育てる場所として
20歳代	①水や空気のきれいさ ②緑の多さ ②海や山、田畠など自然の豊かさ	①交通の安全性 ②地震に対する安全性 ③買い物の便利さ
30歳代	①海や山、田畠など自然の豊かさ ②水や空気のきれいさ ③緑の多さ ③海や山、田畠など自然風景の美しさ	①買い物の便利さ ②水害に対する安全性 ③交通の安全性
40歳代	①海や山、田畠など自然の豊かさ ②海や山、田畠など自然風景の美しさ ③水や空気のきれいさ	①地震に対する安全性 ②買い物の便利さ ③交通の安全性
50歳代	①海や山、田畠など自然の豊かさ ②水や空気のきれいさ ③日当たり、風通しのよさ	①買い物の便利さ ②医療施設の利用しやすさ ③通勤・通学の便利さ ③地震に対する安全性
60歳代	①水や空気のきれいさ ②海や山、田畠など自然の豊かさ ③緑の多さ ③海や山、田畠など自然風景の美しさ	①買い物の便利さ ②水害に対する安全性 ③地震に対する安全性
70歳以上	①日当たり、風通しのよさ ②水や空気のきれいさ ③緑の多さ	①買い物の便利さ ②水害に対する安全性 ③医療施設の利用しやすさ

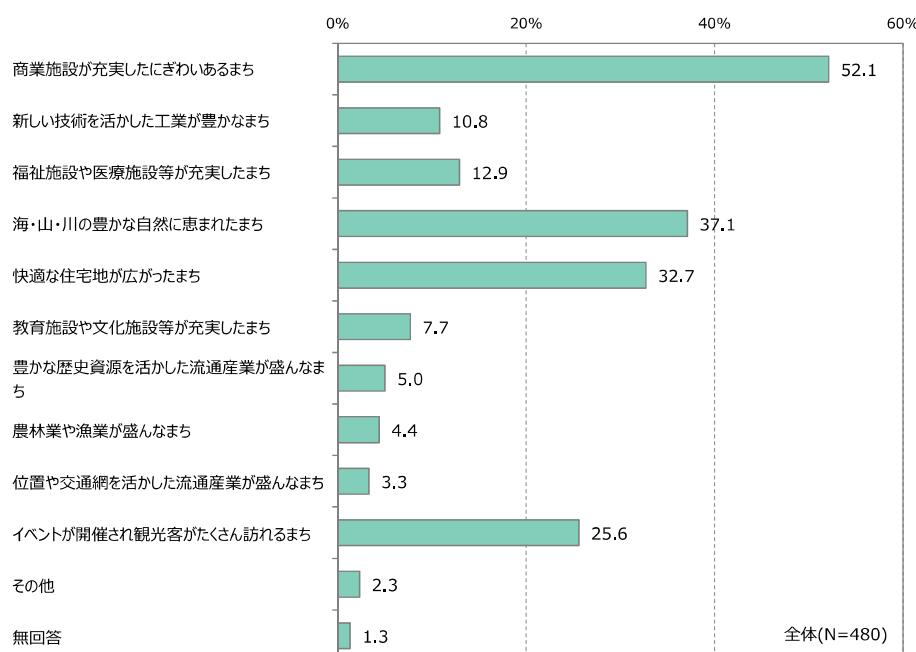
※上記、項目前の数字は、順位を示している。

■今後、宇城市が目指すべき方向性（市民・中学生アンケートより一部抜粋）

- ・福祉や医療が充実した福祉都市が最も高く、次いで、自然に恵まれた自然都市、にぎわいのある商業都市となっています。
- ・中学生アンケートでは、にぎわいのあるまちが最も高く、次いで、自然に恵まれたまち、快適な住宅地が広がったまちとなっています。



▲今後、宇城市が目指すべき方向性（市民アンケート）



▲今後、宇城市が目指すべき方向性（中学生アンケート）

2-3 施策・誘導方針(ストーリー)

【まちづくりの方針（ターゲット）】

子育て世帯や高齢者が快適に暮らしやすく
自然環境と都市のバランスがとれた
多様な暮らしぶりの核となる“まち”づくり

誘導方針 1 :
**誰もが快適かつ
健康に暮らせる
都市拠点の形成**

本市の都市活動の中心として、地域特性に応じた都市機能を集約するゾーンの形成とともに、ゾーンに応じた居住の誘導や快適で外出しやすいまちなかの形成を図り、誰もが快適かつ健康に暮らせる都市拠点の形成を進めます。

《ゾーンの適正配置による効率的な拠点の形成》
《多世代にとって便利な都市機能の集約と居住の誘導》
《快適で外出しやすいまちなかの形成》

誘導方針 2 :
**多様な暮らしぶ
りをつなぐ公共
交通ネットワー
クの形成**

各拠点から都市拠点までのアクセスや周辺居住地から各拠点までのアクセス性の向上を図り、本市の多様な暮らしぶりをつなぐ公共交通ネットワークの形成を進めます。

《拠点間連携を強化する地域間幹線ネットワークの形成》
《地域ニーズに応じた細やかな公共交通ネットワークの形成》

誘導方針 3 :
**安全・安心に暮
らすことができ
る防災都市構造
の形成**

災害リスク等を考慮した安全・安心な居住地の形成と都市機能や居住の集約を図り、安全・安心に暮らすことができる防災都市構造の形成を進めます。

《安全・安心な居住地の形成》
《復興まちづくり計画に基づく防災都市構造の構築》

誘導方針1：誰もが快適かつ健康に暮らせる都市拠点の形成

《ゾーンの適正配置による効率的な拠点の形成》

- 都市拠点内では、既存の施設や機能の集積状況等を踏まえた多極型のゾーン配置による補完関係を構築し、効率的な拠点形成を図ります。
- 本市の中心として、高次都市機能を集約する「都市中枢ゾーン」「行政サービスゾーン」と都市拠点内縁辺部等の居住者の生活利便を確保する「生活機能集約ゾーン」を既存公共交通軸上に配置します。

《多世代にとって便利な都市機能の集約と居住の誘導》

- 生活に必要な都市機能の集約・誘導による拠点形成と居住誘導の連動を図り、人口減少が進んだとしても、安定的に生活サービスを提供できる拠点を形成します。
- 子育て世代や高齢者等の暮らしを支えるため、保育所や幼稚園、教育施設、福祉施設、身近な公園などの子育て環境や高齢者支援の充実を図るとともに、地域包括ケアシステムの構築等を踏まえた都市機能の集約・誘導を進めます。
- 居住者に応じた都市機能の誘導や都市機能の集積状況に応じた居住者の誘導を可能とする様々な誘導施策を展開することで、都市機能と居住者ニーズのマッチングを行いながら、一定の人口密度の維持を図ります。また、ライフステージの転換期における市外からの住み替え・転入を促進するため、居住ニーズに応じた都市機能の集約・誘導と適切な宅地形成の促進を図ります。

《快適で外出しやすいまちなかの形成》

- 安全・安心に移動できる歩行空間の確保や街並み景観への配慮等による「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出を図り、外だしやすいまちなかの形成を進めます。
- 既存ストックを活用したリノベーションまちづくり等を推進し、市内に点在する空き家や空き地等の解消を図るとともに、公園・道路などの都市基盤整備や公的不動産の活用を図り、快適で良好なまちなかの形成を図ります。

誘導方針2：多様な暮らししぶりをつなぐ公共交通ネットワークの形成

《拠点間連携を強化する地域間幹線ネットワークの形成》

- 熊本及び八代方面を結ぶ鹿児島本線と三角から熊本方面を結ぶ三角線で構成される鉄道を活かし、熊本市や宇土市をはじめとする周辺都市への移動を円滑にする地域間幹線ネットワークの形成を図ります。
- 鉄道駅と各地域の拠点を結ぶ路線バス等の維持・充実による地域内幹線ネットワークの形成を図るとともに、各地域の拠点から離れた地域と拠点までを結ぶ乗合タクシーの効率的運用による地域内幹線を補完する支線の形成を図ります。
- 拠点では、鉄道、路線バス、乗合タクシー、自家用車等の多様な交通間を対象とした円滑な乗り換えの促進を図ります。また、駅周辺等において、民間活力の導入等による官民共同の魅力的な交通結節点の形成を図り、公共交通結節機能と拠点形成の連動による効率的な地域間幹線ネットワークの構築を図ります。

《地域のニーズに応じた細やかな公共交通ネットワークの形成》

- 地域のニーズや利用状況に応じた運行形態・ルート・ダイヤ・バス停位置の変更等の見直しを行うなど、細やかな公共交通ネットワークの形成を図ります。
- 交通空白地域では、乗合タクシーの導入やスクールバスの地域公共交通への活用など、交通利便性の向上に向けた取組を進めます。
- 自動運転サービスやAI、IoTなどの先端・未来技術の実装によるMaaSの導入検討を図るなど、スマートシティに向けたまちづくりを進め、公共交通の課題の解決を目指します。

誘導方針3：安全・安心に暮らすことができる防災都市構造の形成

《安全・安心な居住地の形成》

- 安全・安心な居住地の形成に向けて、ハード・ソフト両面での防災・減災対策による災害リスクの低減を図ります。
- 災害リスクが高く、防災・減災対策が困難な地域では、居住の抑制や移転促進等による災害リスクからの回避を図ります。

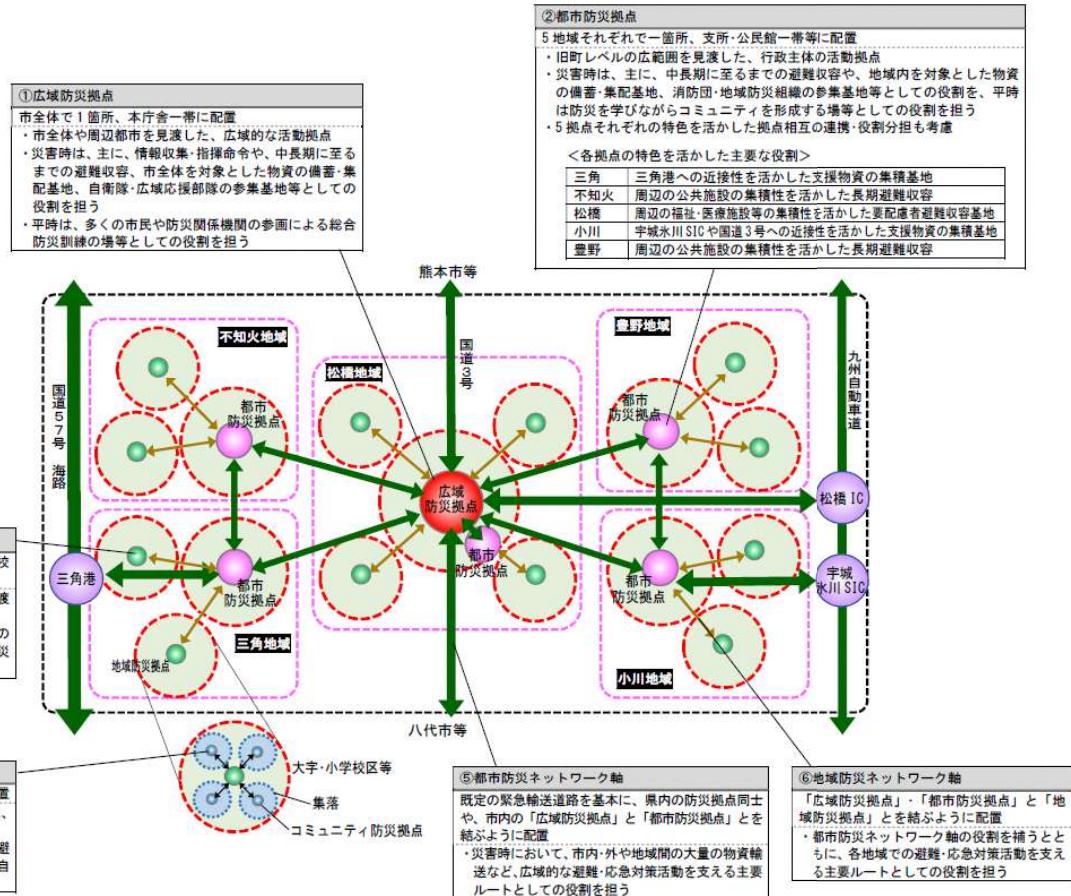
《復興まちづくり計画に基づく防災都市構造の構築》

- 復興まちづくり計画に基づき、各拠点における防災拠点の形成や円滑な避難等を誘導する防災都市構造の構築を図ります。
- 都市機能及び居住を集約する都市構造と防災都市構造を連動させることで、防災都市構造の強化を図ります。

2. 防災都市構造の明確化

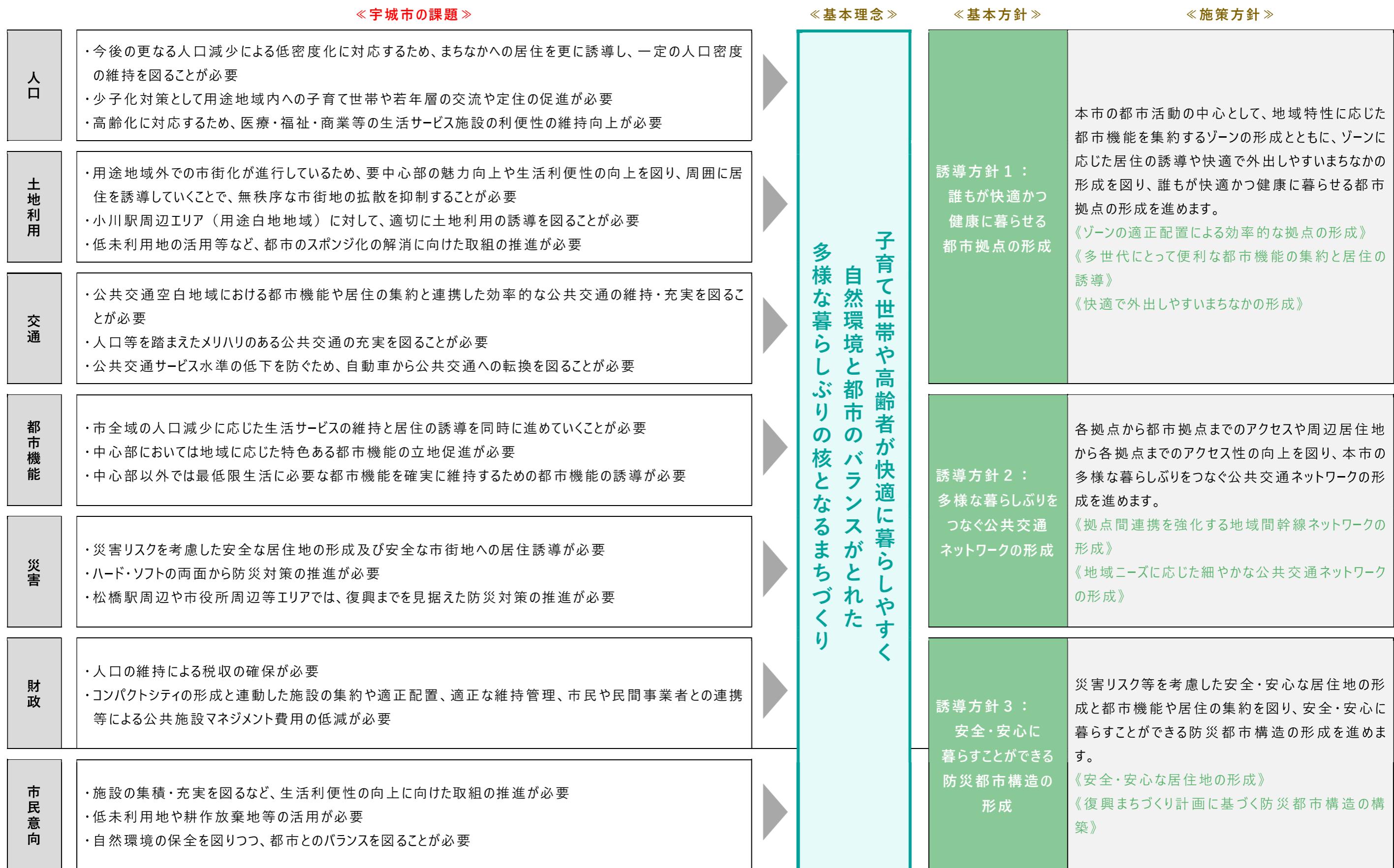
(1) 基本的なイメージ

本市の防災都市構造は、4種の拠点と、2種のネットワークにより構成することとします。



▲宇城市復興まちづくり計画における防災都市構造図

■宇城市が抱える課題とまちづくりの方針の対応

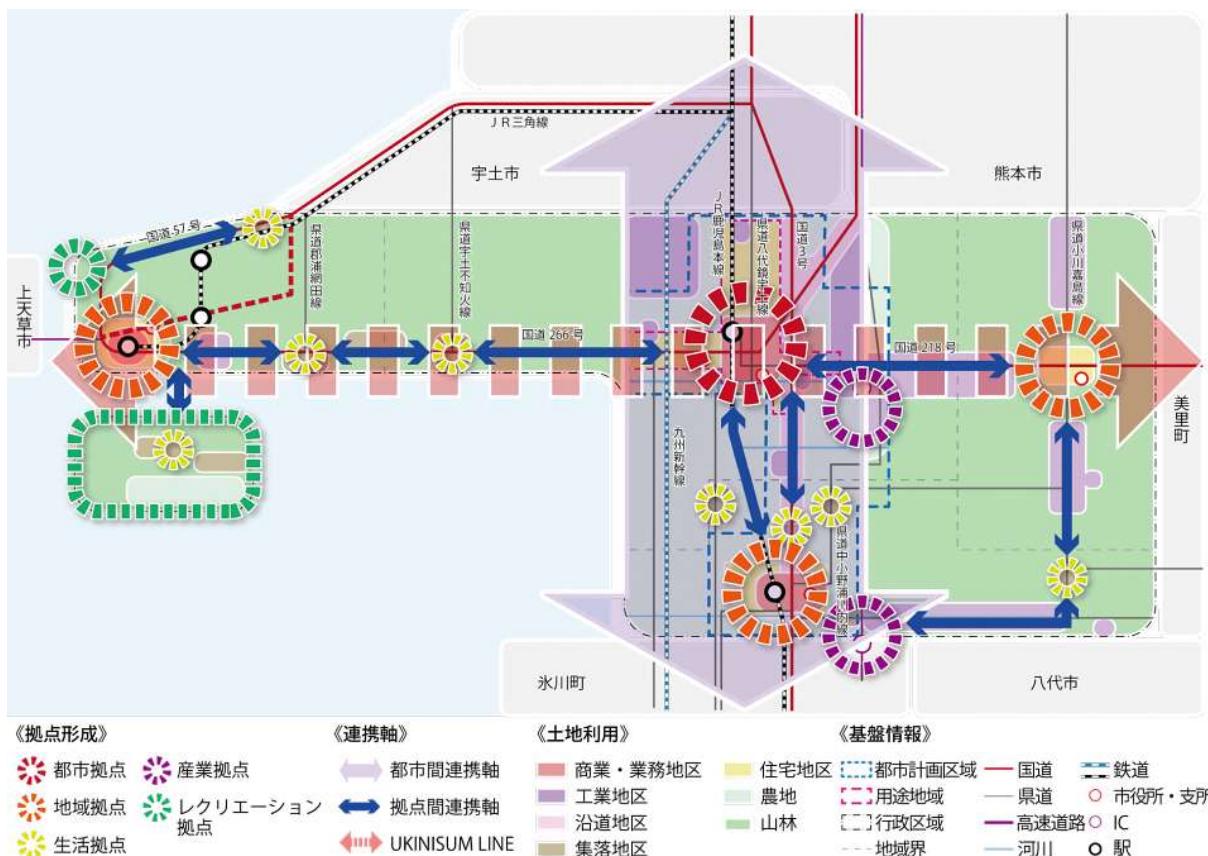


3 目指すべき都市の骨格構造

3-1 将来都市構造(市全域)

将来都市構造は、本市が目指す将来の都市の姿を「点：拠点」、「線：軸」、「面：土地利用」の3つの要素で表現したものです。

将来都市構造は、周辺市町村や市内の各拠点を連携軸で有機的に結び、各拠点が都市づくりの基本理念や基本方針を踏まえた都市形成を図れるよう設定しています。



3-2 立地適正化計画におけるまちの骨格構造

(1) 都市計画マスタープランと立地適正化計画の関係性

前述した将来都市構造は、市全域を対象に設定しているものであり、立地適正化計画では、都市計画区域を対象としたまちの骨格構造を設定します。

まちの骨格構造の設定においては、本市の中心的な役割を担う JR 松橋駅周辺や市役所周辺に高次都市機能を集約する「都市中枢ゾーン」「行政サービスゾーン」を設定し、街暮らしのエリアの魅力向上及び市全域の生活利便の維持・向上を図ります。

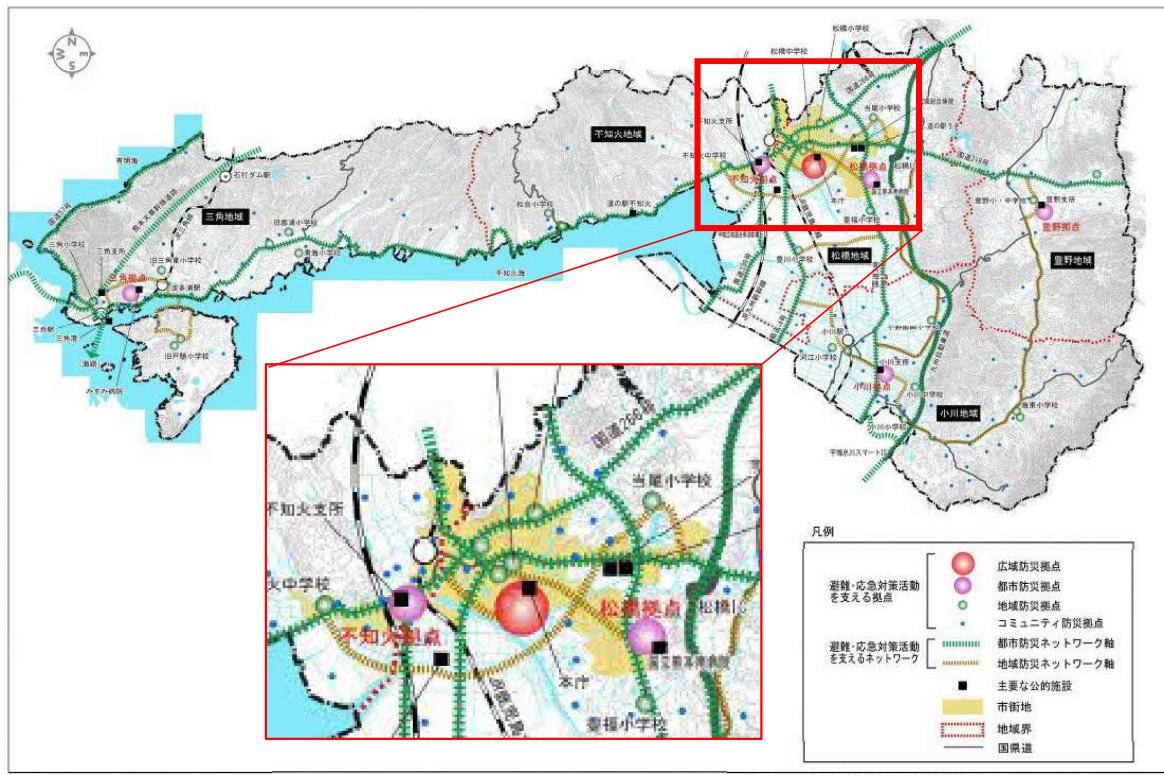
加えて、上記の 2 つのゾーンの徒歩圏域外及び誘致圏域外の生活利便性を確保するため、既存公共交通軸上に、生活に最低限必要な施設の集積を図る「生活機能集約ゾーン」を設定し、用途地域全体の生活利便の確保を図ります。

▼都市計画マスタープランの位置づけと本計画におけるゾーンの設定

都市計画マスタープランにおける位置づけ	本計画における位置づけ設定方針	本計画における位置づけ(ゾーン)	地域
都市拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●本市の生活利便を維持・向上するための中心的な役割を担う拠点であり、都市計画区域内であることから、本計画に位置づける。 ●また、様々な都市機能の集積とにぎわいの創出を図る拠点であるため、地域特性に応じた都市機能の誘導を図るため、複数のゾーンに区分し、本計画に位置づける。 	都市中枢ゾーン	JR 松橋駅周辺
		行政サービスゾーン	市役所周辺
		松橋・曲野生活機能集約ゾーン	路線バス停「曲野」周辺
		高良生活機能集約ゾーン	不知火小学校周辺
		久具生活機能集約ゾーン	路線バス停「希望の里入り口」周辺
地域拠点	JR 小川駅周辺	地域交流ゾーン	JR 小川駅周辺
	JR 三角駅周辺		—
	豊野支所周辺		—
生活拠点	●生活拠点は、全てが用途地域外であり、小規模であることから、本計画では位置づけない。		—

(2) 立地適正化計画と復興まちづくり計画の関係性

災害に強い安全な骨格構造を構築するため、「宇城市復興まちづくり計画」における防災都市構造に位置づけられた各種拠点の位置を連動させながら、各種ゾーンの位置を設定します。



▲宇城市復興まちづくり計画における防災都市構造図

▼復興まちづくり計画における拠点と方向性

拠点名	方向性
広域防災拠点	<ul style="list-style-type: none"> 市全体や周辺都市を見渡した、広域的な活動拠点 災害時は、主に、情報収集・指揮命令や、中長期に至るまでの避難収容、市全体を対象とした物資の備蓄・集配基地、自衛隊・広域応援部隊の参集基地等としての役割を担う 平時は、多くの市民や防災関係機関の参画による総合防災訓練の場等としての役割を担う
都市防災拠点	<ul style="list-style-type: none"> 旧町レベルの広範囲を見渡した、行政主体の活動拠点 災害時は、主に、中長期に至るまでの避難収容や、地域内を対象とした物資の備蓄・集配基地、消防団・地域防災組織の参集基地等としての役割を、平時は防災を学びながらコミュニティを形成する場等としての役割を担う 5拠点それぞれの特色を活かした拠点相互の連携・役割分担も考慮
地域防災拠点	<ul style="list-style-type: none"> 大字・小学校区等の比較的広範囲を見渡した、行政・住民協働による活動拠点 災害時は、主に、短中期的な避難収容の役割を、平時は消防団等による自主防災活動の場としての役割を担う
コミュニティ防災拠点	<ul style="list-style-type: none"> 住民にとって最も身近な範囲を見渡した、住民主体の活動拠点 災害時は、主に、緊急避難や短期的な避難収容の役割を、平時は自治会独自の自主防災活動の場としての役割を担う

(3) 立地適正化計画におけるまちの骨格構造の設定と方向性

各種計画との連動を図り、設定する各種ゾーンについては、以下の方向性でゾーン形成を図ります。

▼本計画におけるゾーンと方向性

都市計画マスタープランにおける位置づけ	本計画における位置づけ（ゾーン）	地域	方向性
都市拠点	都市中枢ゾーン	JR 松橋駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅周辺の立地環境を活かした商業・業務施設などの多様な都市機能の維持・集積を図る。 ● 本市の玄関口及び駅周辺の定住の場として、交流による新たなにぎわいの創出を図る。
	行政サービスゾーン	市役所周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 市役所等の公共施設の集積を踏まえ、行政サービスの提供ゾーンとして、さらなる公共施設等の集約や施設間を歩いて移動しやすい空間形成を図る。
	松橋・曲野生活機能集約ゾーン	路線バス停「曲野」周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺住民の生活に必要な都市機能の維持・集積を図るとともに、沿道の無秩序な都市機能の立地の抑制を図る。
	高良生活機能集約ゾーン	不知火小学校周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 「都市中枢ゾーン」や「行政サービスゾーン」に集約・誘導する都市機能との機能分担を踏まえ、地域の特徴に応じた都市機能の誘導を図る。
	久具生活機能集約ゾーン	路線バス停「希望の里入り口」周辺	<ul style="list-style-type: none"> ● 特に高良生活機能集約ゾーンについては、小学校、図書館といった文教施設の立地を活かし、子育て世帯の居住誘導を図る。
	JR 小川駅周辺	地域交流ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅周辺の立地環境を活かし、市南部地域の住民を対象とした都市拠点を補完する商業や行政サービス等の都市機能の維持・充実及び交流によるにぎわいの維持・向上を図る。

▼復興まちづくり計画の位置づけと本計画におけるゾーンの設定

本計画における位置づけ（ゾーン）	復興まちづくり計画における位置づけ
都市中枢ゾーン	—
行政サービスゾーン	広域防災拠点
松橋・曲野生活機能集約ゾーン	地域防災拠点（松橋小学校）
高良生活機能集約ゾーン	都市防災拠点（不知火拠点）
久具生活機能集約ゾーン	都市防災拠点（松橋拠点）
地域交流ゾーン	都市防災拠点（小川拠点）

